

Acanthus

headline news

平成18年度 入学宣誓式

産学連携 中部地区の大学長ら地域活性化を討論

Campus Trend 基本は自らのビジョンを持つての自学自習/
縦割の学問体系を打破し第一線級レベルを目指す

夢project オーロラの電磁波を突き止めたい/
「熱」という雑音を排し、物質の本質に迫る

ヤングパワー 誰もが楽しめる観光都市へ/
片町と学生のユニークコラボ

医療最前線 より納得のいく治療に向けて...

海外からの報告 タイにおける最初の大学/未来を開く大学

Dou!Sou!Kai!便り 全学同窓会連絡協議会

歴史探訪 金沢医学校・金沢病院・石川県甲種医学校・尾山病院

ニュース&トピックス

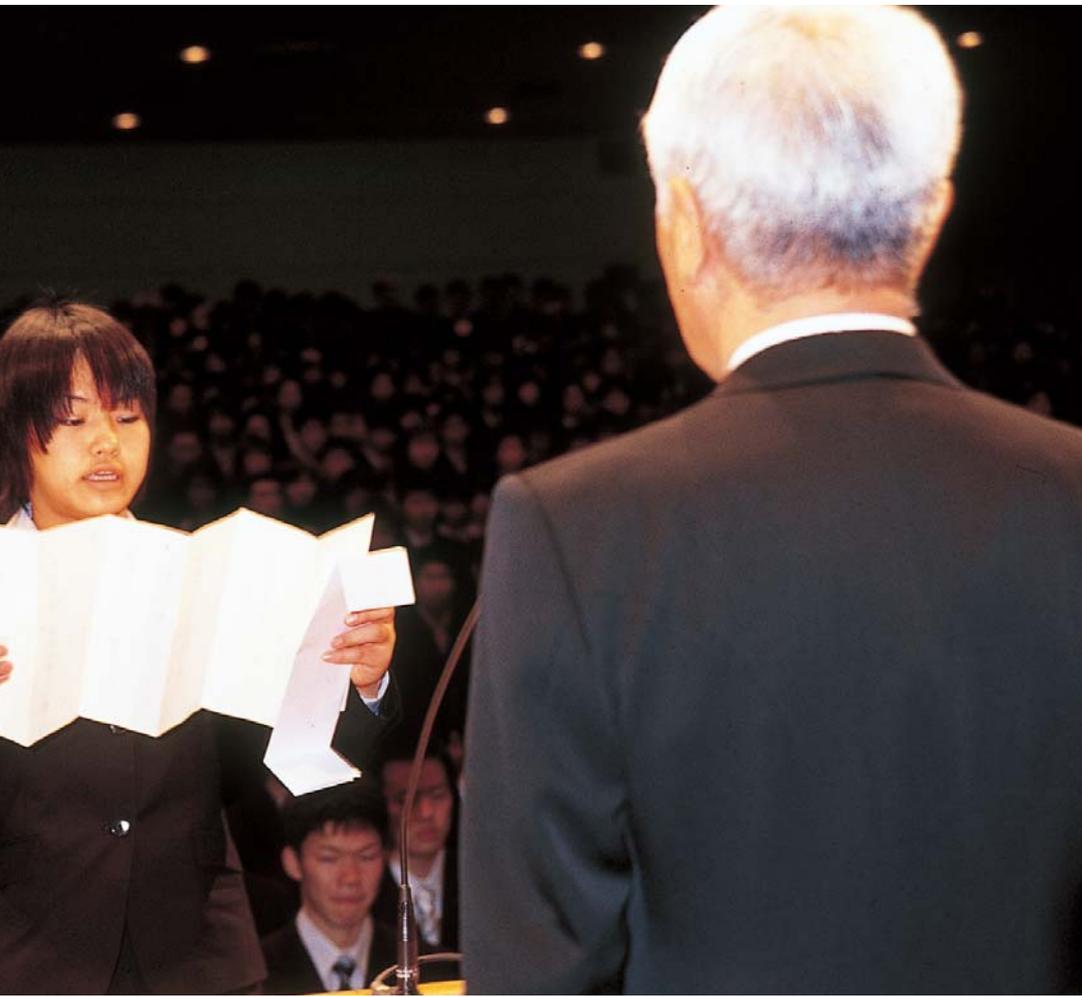
NO.5

2006・SPRING

平成18年度入学宣誓式

2813人が 希望を胸に学問・研究の道へ――

4月7日、金沢市観光会館で平成18年度金沢大学入学宣誓式が、また、医学部十全講堂で金沢大学大学院入学宣誓式が挙行され、学部生1840名、専攻科8名、別科38名、編入学89名、大学院生838名、計2813名が金沢大学に入学した。



本学での学びと金沢での生活を通じて、理性と感性を高め力強い自己を形成してほしい。
林 勇二郎学長



希望を胸に続々と入場する新入生たち。



中部地区の大学長ら地域活性化を討論

—日本学術会議地域振興・中部地区フォーラム—



林学長



馳副大臣



黒川会長



パネルディスカッション（左から、村上清史金沢大学長補佐、末岡宗広エスシーワールド(株)社長、児嶋眞一福井大学長、中川脩一ISICO石川ハイテク・センシング・クラスター事業総括、松井信行名工大学長、山本和義北陸先端科学技術研究調査センター長、吉国信雄金沢知的財産本部長）

大学の知的資源を活用した地域の活性化を考える、日本学術会議地域振興・中部地区フォーラムが3月3日、自然科学棟で開催された。地域フォーラムは「科学者の国会」とされる日本学術会議が、社会との対話機能の強化を目的に開いているもので、昨年10月に本学の林勇二郎学長が会員となり、今回初めて金沢で開かれた。

馳浩文部科学副大臣、黒川清日本学術会議会長のあいさつに続いて、阿部博之総合科学技術会議議員、徳永保文部科学省大臣官房審議官、林学長が、それぞれ研究者、大学の立場から、大学の知をいかに地域活性化につなげていくべきかについて講演した。

地区の各国立大学長、ベンチャービジネス企業代表らが、地域のニーズに大学がどう応えるか、人材育成にどう関わるかなどをテーマに意見交換した。

フォーラムには、中部地区の大学の教員、自治体関係者はじめ、中部経済産業局、北陸経済連合会などから200名余りが出席した。



新入生を歓迎して合歓団が爽やかな歌声を、フィルハーモニー管楽団が華麗な演奏を披露した。





1

新・共通教育カリキュラム 基本は自らのビジョンを持つための自習自習

大学生の学力が低下している。

近年、何かと話題になる「大学生の学力低下」。何かと話題になる「大学生の学力低下」が報道されることも多い。

分数の計算ができない、ノートが取れない、文章がかけない。そんなショッキングな文句が報道されることも多い。

金沢大学でも今年度から共通教育カリキュラム(注)を刷新し、新1年生の指導に当たっている。本当に大学生の学力は低下したのだろうか？ だとすれば、本学はどのような方法で新1年生を指導していくのだろうか？

新しいカリキュラム。その立ち上げの中心的役割を担った共通教育機構長、古畑徹教授にお話を伺ってきた。

学力が下がったのではなく、
格差が広がった

ゆ とり教育が始まり中学、高校と、授業入試も科目が選択可能になった。その結果、差が広がる原因になっていると古畑教授は言う。

例えば、Aという科目は、入試で選択しな

くっていくので詳しく教えない。そのような判断が学校ごと、科目ごとに行われ、Aという教科を学んできている学生、Aは学んでないがBを学んでいる学生など、学びの内容にばらつきのある学生が大学に入学

しているのだと。

自ら学ぶ。

興味を広げる。

この「格差」をこれまでの大学教育

で埋めるのは難しい。そのため金沢大学では「学生自身にその格差を埋めてもらう」と考えている。新カリキュラムから始まる「導入科目」で、彼らの「自習自習」に期待するのだ。

自習自習の核となる導入科目は「ゼミ」。「初學者ゼミ」と「大学・社会生活論」だ。

初學者ゼミは、文字通り「ゼミ」形式の授業。調べる、発表する、文章にまとめるなど、大学での学びの基礎を1年生の段階から学習することになる。

一方で、大学・社会生活論は「健康管理教育」や「GMの分別ルール」など、大学生活をおくる上での基礎的な事柄を学ぶ。

こんなことまで大学で教えるの？ という声が聞こえそうだが、教えるのはその道のスペシャリスト。最後は学問に昇華される。健康管理教育は「生活習慣病や心の健康」に「GMの分別ルールは、国際的な環境問題」といった具合だ。

これによって学生に、様々な学問に対するベースを身につけてもらうのだ。

自立に向けてのカリキュラム

古畑教授は、これら導入科目を「自立に向けてのカリキュラム」と位置づけた。

それは「初學者ゼミ」で学び方を学び「大学・社会生活論」で様々な学問のベースを身につける。そのことによって、これからの4年

間で、自分が学びたいことを明確にイメージし、それを目標とできる力を培おうという思想があるからだ。

そして、その力は大学だけにとどまらず、自分の将来に向けられるものになってほしいと古畑教授は語る。そのため、大学・社会生活論の中には就職・進学論や留学論も含まれている。この講義を、キャリア教育のベースとするためだ。

本年度の1年生は、「ゆとり教育」の第一期生。

彼らが持っている様々な可能性が、新しい共通教育カリキュラムによって広がっていくことに期待したい。

新カリキュラムは3つの柱からなっている。

導入科目	「初學者ゼミ」「大学・社会生活論」他に、受験勉強で落ちた身体能力を回復させる「体力リフレッシュ」がある。
英語教育	学生をセンター試験の成績に応じた5段階に分け、習熟度別のきめ細かな指導を行う。外国人教員との英会話が必要履修できる。TOEICやTOEFL等の外部試験成績も単位化する。
情報処理	新入生ノートパソコンの必携化(Acanthus No4に記事)にあわせ「情報処理基礎」を開講。パソコン操作だけでなく、情報倫理やネットワークセキュリティから学ぶ。

これら新しい講義の内容が知りたい方は <http://sab.adm.kanazawa-u.ac.jp/> Webシラバスで検索ください。

大学院人間社会環境研究科がスタート 縦割りの学問体系を打破し第一線級レベルを目指す

4月から大学院人間社会環境研究科が設置された。

文、法、経済の3研究科の修士課程を、同研究科の博士前期課程として発展統合。これまでの社会環境科学研究科を新研究科の後期課程に位置づけ、5年一貫教育を目指す。改組の目的、カリキュラムの特色について、4月に就任した柴田正良研究科長に伺った。

縦割りの学問では対応できない

例 えば少子化問題を解決するには、法、経済、教育、福祉といった様々な分野にわたる知識が必要になる。このように現代的課題には、これまでの縦割りの学問体系では対応できず、学際性、融合性が求められるようになってきている。既設の社会環境科学研究科は学際性、融合性を謳ってはいたが、博士課程のみで下からの支えが弱かった。

そこで、学部教育から連続して5年一貫で研究者や高度専門職業人を養成する大学院として、新研究科をスタートさせた。ここでは、今日の人間と文化、社会の相互関係をめぐる諸課題を人間社会環境の問題として、より総合的、多角的に捉えることとしている。

カリキュラムの体系化、 そして学位取得へ

新研究科の設置に伴い、カリキュラムも大

一貫性が不足していた。また、博士課程では学位取得のハードルが高く、学位取得者は入学者の半分以下という状況が続いていた。

新研究科の博士前期課程では、研究者志向型、リカレント(注)型、生涯学習型といった学生の到達目標のタイプに合わせた個々の学習計画をもとに、年次進行に沿って共通科目、基礎科目、展開科目といった科目を組み立て、体系的に学べるようにする。

博士後期課程では1、2年次にそれぞれ、雑誌への論文投稿を義務付け、それらが博士論文の一部を成す形で3年次に博士論文を完成させる。また、教員が組織するプロジェクト研究に参加して研究実績を重ねさせる。論文審査を2段階方式とし、修正する機会を与えることで審査に合格するレベルの論文を完成させる。このように着実にステップアップすることで、学位取得者の大幅な増加を目指している。

1年コースも目玉

博士前期課程の公共経営政策専攻には、短期在学(1年)コースを新たに設置した。コースでは、公務員、NPOなどで働く社会人のリカレント教育を行う。職業現場で培った知識、技術、ノウハウを授業に生かした形での単位取得、夜間・土日開講の授業、修士論文に代わるリサーチペーパーなどカリキュラ

ムを工夫することで、働きながら1年での修士を目指す。

コースには14名の受験があり、この春から5名が入学した。期待以上に反響が大きかった。

教育研究拠点を作りたい

「人間社会環境という概念が捉える学問分野で、日本海側の教育研究拠点を作りたい」柴田研究科長に抱負を尋ねたら、こんな答えが返ってきた。学生の教育はもちろんのこと、研究面でも全国的に第一線級のレベルを目指したいそうだ。

そして、「金沢市内の文系の修士は、金大がすべて引き受けます。北陸3県の文系の博士は金大がすべて引き受けます」との頼もしい言葉。

研究科長を船長に新しく船出した人間社会環境研究科。教育研究の充実と発展を期待したい。



大学院入学式にて



注 リカレント：一度社会に出た人が、再び教育の場で最新の知識や高度な技術を学ぶこと。

vol.4 オーロラの電磁波を 突き止めたい

南極昭和基地で活動中!!

自然科学研究科助手

尾崎光紀



西オングルに設置したアンテナと尾崎助手



オーロラと尾崎助手



盗賊カモメと冰山

人のつながりの大切さが
身にしみる、南極生活

現在、私たちは大規模な昭和基地の運営をたった36名で維持しています。昭和基地での生活を紹介しますと、びっくりするほど「快適」で、PHSが使える、ラジオ放送もあり、郵便局まである…。インターネットも常時接続と日本と変わらぬ生活を送ることができています。しかし、これらすべてありとあらゆることは、私たちたった36名でまかなっているのです。これから2007年12月までの約1年間、この36名で基地を守り、次の第48次隊の受け入れに備えているのです。1年間の長い昭和基地での生活、何が起きるかわかりません。しかし、私たち47次隊は、強い結束で、この昭和基地を守りぬくことができるでしょう。

日本の生活では気づかなかった人とのつながり、協力、ここ昭和基地では痛いほど感じることができます。

2005年11月28日、私は、第47次南極地域観測・研究観測隊員として南極・昭和基地に向けて、日本を出発しました。氷山・ペンギン、アザラシに出迎えられ、12月18日、氷海を航行中の南極観測船「しらせ」より一足早くへりで、南極・昭和基地に降り立ちました。昭和基地での行動がいよいよ開始です。

オーロラの根源となる領域を 立体的に観測

今 回、私は極地方特有のオーロラに伴う自然電磁波がどこからやってきたのか？そして、その発生領域がどのように変動するのか？を突きとめようとしています。特に可聴周波数帯であるVLF

帯(注1)の自然電磁波動的をしぼり、南極の「H100」、スカーレン、西オングル」という3つの無人観測点(注2)に観測器を設置するという大きな研究テーマを持って、南極観測隊に参加しました。特に昭和基地より約100km離れたH100とスカーレンには、観測データを国内において準リアルタイムで把握できるように、イリジウム衛星(注3)を用いたデータ伝送システムを新しく採用しています。また、南極での観測だけでなく科学衛星「あけぼの」の協力で、今回、衛星と南極との同時観測を可能としました。そのため、3次元での観測が可能となり、世界で初めてオーロラの根源となる領域を「立体的」に捉えることができるかもしれないという期

待がもたれています。内陸に位置し、第47次観測隊のへりを使ったオペレーションの中で、最も危険な場所であるH100での観測器設置作業、スカーレンでは天候悪化によりへりが飛ぶことができず、吹雪のなかテントでの停滞なども経験しましたが、私の「南極自然VLF波動多点観測」は、観測点3箇所すべてにおいて無事観測器を設置することができ、大成功でオペレーションを遂行することができました。これもまた、多くの方の協力があったからこそ得られた結果です。誰一人の協力が欠けても成功することはできませんでした。本当に人と人とのつながりが、こんなにも大事なものであるかということをここ、南極では教えられました。



夕日をバックにペンギン

注1：人間の耳に聞こえる(20Hz~20kHz)周波数帯の中にある電波の周波数帯
注2：これらの地点を結びと一辺約80kmの正三角形を形成する
注3：世界中のどこでも使える携帯電話サービス用の衛星



「マイクロK温度領域における量子臨界現象の研究」
これは、科学研究費補助金（科研費）の中でも最高ランクの「特別推進研究」に選ばれた鈴木治彦教授の研究課題である。特別推進研究とは、国際的に高い評価を得ている研究をよりいっそう振興するために設けられた研究種目であり、世界一の冷却装置と極低温実験の豊富な実績を持つ鈴木教授には、5年で

2億4千万円の研究費が交付されることが決定している。過去には、ノーベル化学賞を受賞した野依良治教授も選ばれていた特別推進研究。そんな日本最高の研究種目に選ばれた鈴木教授は、どのような謎に挑んでいるのだろうか。お話をうかがってきた。
「熱」とは「振動」である
ミクロの世界において
マ イクログととは限りなく絶対零度（ゼロK（ケルビン））。我々になじみ深い温度表記に直せばマイナス273.15℃に近い温度を指す。鈴木教授は、そんな「熱のない」世界において「事象の本質」を観測しようとしている。



核断熱消磁冷却装置の心臓部

vol.5 「熱」という雑音を排し、物質の本質に迫る

金沢大学初の特別推進研究

金沢大学特任教授

鈴木治彦



極低温研究室。様々な計測器が並び

そもそも「熱」とはミクロの世界では「原子の振動」という状態で現れてくる。言い換えれば「熱をもつ物質の原子はすべからず振動している」ということになる。揺れたままの物質を観測しても詳細が分からない。そのためになんてくるのが、マイクログと呼ばれる極低温。熱による振動が限りなく抑えられた状態なのだ。
桁違いの低温で、量子臨界現象を導く
熱による振動が抑えられると、物質の振る舞いが変化し始める。今まで、熱によって隠されてきた物質の本質が顔を出し始める（＝量子相転移）のだ。鈴木教授はこの付近で起きる現象（＝量子臨界現象）に目

を光らせている。
金沢大学の核断熱消磁冷却装置が作り出す温度は0.00005K（マイナス273.149995℃）。他機関の一般的な研究温度が0.01Kであることを考えると桁違いの低温だ。
観測が熱源に。低温物理学は時間との戦い
低温になればなるほど、実験にかかる時間が長くなる。なぜなら観測すること——光を当てて物質を見る。電波を当てて物質を探る——その行為が、温度上昇の原因となるからだ。1度観測すると1週間ほどかけて再冷却する必要が生じる。さらに、正確なデータを取るためには、複数回の観測を行わなければならない。
その繰り返しで、1つの実験が終わるのに半年もの時間を要するという。
それでも鈴木教授が0.00005Kで実験を行うのは、0.01Kでは見えないものが見えるから。まだ誰も見たことのない、物質の本質が見えるからだ。
未知への情熱が原動力
本年度に定年退職を迎える鈴木教授だが「特任教員」として、引き続き金沢大学で研究を続けてゆくと決定している。「これですます研究に没頭できます」鈴木教授は本心にうしろさずに語ってくれた。純粋な、未知への情熱。それこそが、世界の根源を紐解くエネルギーである。

特任教員：寄附講座や科研費などの外部資金によって、学長の認めた特定のプロジェクトを推進する教員のこと。平成18年度から始まり、鈴木教授のほかにも、イク・ノーベル賞を受賞した廣瀬幸雄教授など、高度な専門知識を有する教員が就任している。

道路の段差を計測中!



調査対象とした観光地は兼六園、東茶屋街、武家屋敷、尾山神社の4ヶ所。学生1人を車椅子の模擬使用者、1人を介助者と設定し、車椅子を使用し実際に訪ねた。歩道、出入口、トイレ、廊下、展示場、喫茶店などの段差、幅などを測定し、使いやすさ、心地良さなどの項目をチェックする。より客観的な指標を用いて評価するため、チェックシートを新たに作成

研究のきっかけは、授業で駅や繁華街、美術館、トイレなど公共施設のバリアフリー度を調査したこと。この授業を引き継ぎ、観光地のバリアフリー度がどんなものか車椅子使用者の視点から検証を試みた。金沢市は全国でも有数の歴史ある観光地が多くあるが、観光地のバリアフリーについて調査した資料が少なく、調査結果が観光地の環境改善に少しでも役立てればと考えた。

金沢市の観光地のバリアフリー度を調査。医学部保健学科作業療法学専攻の学生7名による研究は、17年度「学長研究奨励費」による補助を受けた。報告書完成によりようやくこぎつけたというグループに話を聞いた。

研

研究のきっかけは、授業で駅や繁華街、美術館、トイレなど公共施設のバリアフリー度を調査したこと。この授業を引き継ぎ、観光地のバリアフリー度がどんなものか車椅子使用者の視点から検証を試みた。金沢市は全国でも有数の歴史ある観光地が多くあるが、観光地のバリアフリーについて調査した資料が少なく、調査結果が観光地の環境改善に少しでも役立てればと

1「学長研究費奨励費」による

誰もが楽しめる観光都市へ
～学生がバリアフリー度調査～



毎日、集まって研究をまとめました

バリアフリーマップで分析

その結果、各観光地のバリアフリーに対する取り組みが不十分な点が明らかになったが、ここで様々な限界に突き当たった。当初は、研究結果を行政や各観光地に提供し、改善に利用してもらうつもりだったが、行政では、観光地の施設を管轄する部署が統一されていない、観光地では、地形の都合、景観保護条例の適用、個人の家や商店には改善を求められない、資金の補助がないなどから、簡単に改善できるわけではないことがわかった。

意見をぶつけ合い大きな財産に

自身の勉学、実習と研究の掛け持ちは大変だ。実地調査の後、数ヶ月はなかなか時間がとれずに、1月下旬から2月の1ヶ月余りの間、ほぼ毎日、皆で集まってあげた。グループ代表の相川美紗子さんは「皆で意見をぶつけ合って研究をまとめていったことは貴重な経験。今後、様々な設定を加えて、卒業研究などに発展させていってもおもしろいかも」と研究を終えての感想を語ってくれた。

そこで、観光地の「バリアフリーマップ」を作成し、アクセス、坂、段差、通行不可区域、注意点などの情報を提供して、現状のまま車椅子使用者と健常者が共に観光を楽しんでもらうことを考えた。作成したマップは、実際に車椅子使用者の意見を聞く

学業との両立、思い通りに進まない研究、様々な壁にぶつかりながらも、まとめあげた報告書。7月には研究発表会、9月には「学長研究奨励費」の他の採択課題とともに論文集にまとまられる。苦労しながら研究に取り組んだ経験は、学生にとって大きな財産になったことだろう。

平成17年度「学長研究奨励費」一覧

◎：グループ

文学部		
福井 梓	単語の自動的意味処理における気分一致効果の検討	
杉原 淳子	ラットの計数行動に関する研究	
◎川端優香里	金沢大学卒業生からみた大学教育の評価	
◎林 愛美	少年犯罪統計の基礎的分析とデータ・ベース構築	
教育学部		
◎若下垂希子	インターネットを利用した教員免許取得単位のチェックシステムの試作	
古市 泰郎	短期間の局所不活動が下肢筋素動態に及ぼす影響について	
法学部		
◎若生 幸也	金沢市における住民参加の政策形成	
経済学部		
◎小長谷春奈	ステッカーから見る「物言わぬ日本人」	
理学部		
◎荒砂 貴司	日本海形成時の地質変動の記録 - 南砺市周辺の地質調査 -	
医学部医学科		
田中 良男	脊髄小脳変性症の病態解明と治療法開発	
医学部保健学科		
◎林 裕子	助産師Role Modelと職業継続の関連性の研究	
◎相川美紗子	金沢市の観光地におけるバリアフリー体験による実態調査	
薬学部		
前田紗弥香	トラウマ発症機構の解明研究	
工学部		
◎高橋 恭平	第4回全日本学生フォーミュラ大会参戦車両のサスペンション試験装置の設計・製作	

「学長研究奨励費」とは？
学部生の優れた研究を奨励するため、1件あたり20～30万円の範囲で必要物品等を奨励する制度。毎年50件以上の申請の中から、優秀な研究が10数件選ばれており、17年度は51件の申請に対し14件が採択された。研究の成果は、成果発表会の開催や論文集発行により公表されている。

バブル経済の崩壊や、郊外型大規模商業施設の進出、消費者の価値観の多様化など様々な要因が地方都市商店街を苦しめている。それは金沢の中心街・片町においても例外はなく、関係者は街の停滞・衰退に危機感を抱いている。

そのような状況を前に、本学経済学部情報科学研究室「飯島ゼミ」は、携帯電話のQRコード読み取り機能を用いた、「ユニークな」商店街活性化作戦「を考案。2003年から実施して、大きな成果を挙げている。

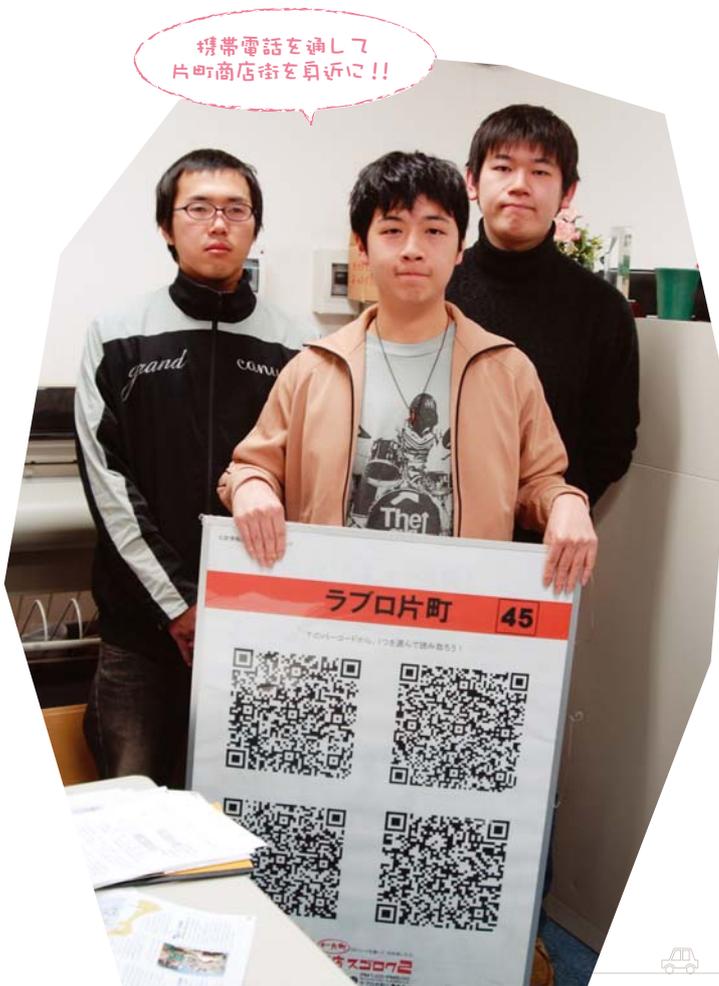
その名も「e-片町お店スゴロク」
3回目の実施となった2005年には、雑誌による独自の「ライフスタイル分析」を導入し、見事地域課題研究ゼミナールの最優秀賞に選ばれた。

e-片町お店スゴロクとは？ ライフスタイル分析とは？
飯島ゼミを取材した。

2 携帯電話が商店街を活性化する

片町と学生のユニークコラボ

～「e-片町お店スゴロク」～



携帯電話を通して
片町商店街を身近に!!

片町商店街を
「ゲーム盤」に。
携帯電話を
「サイコロ」に。

ス
↓ゴロクのマス
↓片町商店街
のお店。

次に進むために振
るサイコロ↓お店に
張られたQRコード。

スゴロクのコマ↓自分自身。

そんな、スケールの大きなスゴロクゲームが「e-片町お店スゴロク」である。参加者はQRコードに隠された情報に従って店舗をめぐる。ゲームなので、普段は入ったことのない店にも気軽に訪れることができる。参加者には新店舗の発見、店主には来客と売り上げの増加と、双方にメリットがあり評判も上々だ。当初は「QRコードとは何だ?」と首をひねっていた商店街の方々からも「今年もまたやってみよう」と、声がかかるようになったという。

購読雑誌で「あなた」が分かる。
飯島ゼミ流ライフスタイル分析。

しかし、イベント期間中のみでの来客増加では本当の意味での「商店街の活性化」は達成できない。

そのため、第3回となる2005年の「e-片町お店スゴロク」では、飯島ゼミオリジナルの「購読雑誌」によるライフスタイル分析がゲームに組み込まれ、より参加者のニーズに合った店舗紹介ができるようになった。

これは自分にあった商品を販売するお店を知ってもらう、今後も常連客になってもらう、という試みである。



ゲームの参加者は、自分のよく読む、あるいは興味のある雑誌を読み取って、スゴロクを開始する。これによって、回遊するコースが変化し、自分の興味にあった店舗が紹介されることになる。

後のアンケートでは、79%の参加者が、紹介された店舗は自分にあっていたと回答するなど、十分な成果を上げたようだ。

見えてきた片町の顔

「e-片町お店スゴロク」がもたらすメリットは他にもある。

QRコードの指示

に従い、実際に片町を歩くことによって、その町並みを見てもええるという点である。「今まで片町は、飲みに行く街だったのでこのイベントを通して、様々な店舗があることが分かりました」

とは、飯島ゼミ4年生の加藤さん。歴史ある町並みと、新しい建物が上手に融合している、他の街にはない美しさがあることに気づいたそうだ。

同じように、イベント参加者も、お店に詳しくなれた。商店街を歩いて、お店を見て回ってよかったなどの声を寄せている。

片町商店街と学生、それは歴史あるものも新しいもの。金沢にふさわしいコラボレーションに今後目目が離せない。

飯島ゼミ
ホームページの
アドレスです!



「セカンドオピニオン外来」開設

より納得のいく治療に向けて…

「本当にこの治療法でいいのか。この先生を信頼しているのか」

そんな不安を持った患者により専門的な立場からアドバイスする「セカンドオピニオン外来」を、金沢大学医学部附属病院は平成18年1月から開設した。利用状況や患者からの反応はどうか。セカンドオピニオン外来長の竹原和彦教授に伺った。

患者の意識の高まりから

患

者にとって最善の治療法を本人と主治医で判断するために、主治医以外の医師の意見を聞く。これがセカンドオピニオンである。「医師を変える」のではなく、納得した上で治療を受ける。医療過誤をめぐるトラブルや患者の意識の高まりを受け、大病院やがん専門病院を中心にセカンドオピニオン外来を開設する動きが広がってきた。

得意分野への絞り込みが信頼を

北

陸でも富山大、福井大や国立病院機構金沢医療センター（旧国立金沢病院）などすでに開設されており、金大病院でも世の中のニーズの高まりを受けて、検討開始から数ヶ月で急ぎ開設した。

利用件数は1月が相談30件、受診3件、2月が相談30件、受診10件とがん専門病院を除けば全国的に見てトップクラスである。これは原則全科受付可としている病院が多い中、金大病院では各診療科において得意とする特定の疾患に絞り込むことにより、患者の信頼感、期待感を集めたからではないかという。

指名制と完全予約制

ま

た、特定の疾患ごとに対応する医師が特定されており（指名制）、あやかじめ予約した時間に納得いくまで相談できる（完全予約制）。これまでも一般外来で相談を受けてはいたが、医師が日により異なったり、時間をかけて相談しづらいこともあった。費用は全学自費負担だが、90分までが15,750円と、開設病院の平均的金額に設定されている。

これらのことから、患者からは概ね好評で、近隣地域からだけでなく、遠方から「治療には通えないが一度だけ話を聞きたい」という患者もいるという。

セカンドオピニオンの活用を

納

得した上で治療を受ける、あたりまえのことでありながら、主治医への遠慮から別の医師の意見を聞くことにためらいを感じる患者もまだまだ多い。しかし、セカンドオピニオンの利用が普及すれば、患者は前向きに治療に向かえるし、トラブルも少なくなるだろう。

金大病院では、今後受診できる疾患を増やしていく予定で、竹原教授は「地域医療の中核的医療機関として、より高度な専門的立場から相談・アドバイスをするための外来を開設した。ご自分の病気や治療方針について悩んでいる、あるいは疑問に思っている方はぜひ活用を」と呼びかけている。

金大病院のセカンドオピニオン外来

対象者：患者本人または家族（要本人同意書）
対象疾患：下記ホームページ上で公開
相談時間：月～金の午後（完全予約制）
 60～90分（資料検討、意見書作成時間を含む）
費用：自費負担（健康保険使用は不可）
 90分まで15,750円、延長30分ごとに5,250円
詳細：医学部附属病院のホームページ参照
<http://web.hosp.kanazawa-u.ac.jp/2ndopi/index.html>
お問合せ：医学部附属病院医事課外来係
 TEL：076-265-2079
 FAX：076-234-4330



セカンドオピニオン外来長
竹原和彦



タイにおける最初の大学

教育学研究科修士2年

タンサターポーンポン・パーウィニー



文学部建物

やはり制服であろう。日本の大学は制服がないのに対し、タイの大学は制服が決まっている。女性にはホワイトシャツと黒や紺色のスカートの着用が義務付けられており、同様に男性はホワイトシャツと黒や紺色のスポンを着用する。ただし、バツジやバックルなどに大学ごとに特有のシンボルが彫刻されているので、大学の区別はできる。チュラ大のシンボルは、タイ語で「プラキアウ」と

呼ばれ、ラーマ五世の名前の意味から取った言葉である。これは高位の皇族が用いる冠を意味する。

タイの国立機関の大学の中、最も古い歴史を持つと言われている大学は「チュラロンコーン」という大学である。チュラ大はラーマ五世によって礎が築かれ、王の名前である「チュラロンコーン」が大学名に用いられている。1917年に設立され、バンコクを中心に位置する。敷地面積は200万㎡を有し、法学部をはじめ、医学部や文学部などの計18の学部が置かれている。

大学の大きな違いは、有名ないベントの一つである。タイの「灯籠流し」は、日本の灯籠流しとは違って、日々の生活の支えとなる川の恵みに、感謝の意を表すことを目的とした祭りである。タイ人は祭りで川に灯籠を流し、身近な者と遊びに行くことを楽しむ。ちなみに、チュラ大ならではの灯籠流しに関する言い伝えが存在する。チュラ大前にある大きな池に好きな人と一緒に灯籠を流せば両思いになるし、逆に、付き合っている人と一緒に灯籠を流してしまつと、やがて別れを告げるようになるという。迷

信めいたものであるが、新入生などはロマンチックなストーリーのように胸をときめかせて憧れるようである。もしタイに遊びに来られた際は、是非チュラ大にもお立ち寄りいただきたい。

チュラ大で行なわれる「灯籠流し」の祭りは有名ないベントの一つである。タイの「灯籠流し」は、日本の灯籠流しとは違って、日々の生活の支えとなる川の恵みに、感謝の意を表すことを目的とした祭りである。タイ人は祭りで川に灯籠を流し、身近な者と遊びに行くことを楽しむ。ちなみに、チュラ大ならではの灯籠流しに関する言い伝えが存在する。チュラ大前にある大きな池に好きな人と一緒に灯籠を流せば両思いになるし、逆に、付き合っている人と一緒に灯籠を流してしまつと、やがて別れを告げるようになるという。迷



パーウィニーさん



皇族の冠



女性の制服

未来を開く大学

教育学研究科修士2年

辛紹熙



昇鶴キャンパス

東亜大学校では大学の国際化を目指して国際交流が活発的に行われている。現在19ヶ国58の機関と姉妹協定を締結し、学術情報及び資料交換、教授・学生交換、学術セミナーの共同開催等様々な国際交流が行われている。留学生向けの韓国語授業は従来の授業が改善され、現在は韓国語A、Bコースに分け、水準別授

業を実施している。クラスはレベルテストにより決定する。毎年2回実施される韓国語授業には、韓国語のみならず、韓国の伝統文化の体験、Festivalへの参加や地域交流など様々なプログラムが組み込まれている。

大学の周りにはきれいな自然、躍動感あふれる祭りを楽しみながら、美味しい食べ物を食べる機会がいっぱいある。特に釜山の代表的祭りである、釜山国際映画祭、ザガルチ祭り、釜山海祭りなどが開かれるときは、釜山でなければ感じられない多様な文化を体験することができる。釜山地域の自負心で、また韓国大学の自負心で生まれ変わる東亜大学校の未来はいつでも明るい。

業を実施している。クラスはレベルテストにより決定する。毎年2回実施される韓国語授業には、韓国語のみならず、韓国の伝統文化の体験、Festivalへの参加や地域交流など様々なプログラムが組み込まれている。

大学の周りにはきれいな自然、躍動感あふれる祭りを楽しみながら、美味しい食べ物を食べる機会がいっぱいある。特に釜山の代表的祭りである、釜山国際映画祭、ザガルチ祭り、釜山海祭りなどが開かれるときは、釜山でなければ感じられない多様な文化を体験することができる。釜山地域の自負心で、また韓国大学の自負心で生まれ変わる東亜大学校の未来はいつでも明るい。

業を実施している。クラスはレベルテストにより決定する。毎年2回実施される韓国語授業には、韓国語のみならず、韓国の伝統文化の体験、Festivalへの参加や地域交流など様々なプログラムが組み込まれている。

大学の周りにはきれいな自然、躍動感あふれる祭りを楽しみながら、美味しい食べ物を食べる機会がいっぱいある。特に釜山の代表的祭りである、釜山国際映画祭、ザガルチ祭り、釜山海祭りなどが開かれるときは、釜山でなければ感じられない多様な文化を体験することができる。釜山地域の自負心で、また韓国大学の自負心で生まれ変わる東亜大学校の未来はいつでも明るい。

業を実施している。クラスはレベルテストにより決定する。毎年2回実施される韓国語授業には、韓国語のみならず、韓国の伝統文化の体験、Festivalへの参加や地域交流など様々なプログラムが組み込まれている。

大学の周りにはきれいな自然、躍動感あふれる祭りを楽しみながら、美味しい食べ物を食べる機会がいっぱいある。特に釜山の代表的祭りである、釜山国際映画祭、ザガルチ祭り、釜山海祭りなどが開かれるときは、釜山でなければ感じられない多様な文化を体験することができる。釜山地域の自負心で、また韓国大学の自負心で生まれ変わる東亜大学校の未来はいつでも明るい。

業を実施している。クラスはレベルテストにより決定する。毎年2回実施される韓国語授業には、韓国語のみならず、韓国の伝統文化の体験、Festivalへの参加や地域交流など様々なプログラムが組み込まれている。

大学の周りにはきれいな自然、躍動感あふれる祭りを楽しみながら、美味しい食べ物を食べる機会がいっぱいある。特に釜山の代表的祭りである、釜山国際映画祭、ザガルチ祭り、釜山海祭りなどが開かれるときは、釜山でなければ感じられない多様な文化を体験することができる。釜山地域の自負心で、また韓国大学の自負心で生まれ変わる東亜大学校の未来はいつでも明るい。



釜山のクワンアン大橋





同窓会担当副学長らが出席して開かれた代表者等懇談会

「全学同窓会連絡協議会」 の結成に向けた動き

支部（北の都会）によって作製された「同窓会旗」や「陣羽織」が各支部總會、「四高寮歌祭」などに活用されていること。また「北の都会」を通じた活動から、関東理学部同窓会が結成されたこと。

●各単位同窓会の支部總會等に担当副学長が出かけ、広報資料を活用して大学の近況等について報告し、併せて大学への要望聴取にも努め始めたこと。関東地区（東京）や関西地区（大阪）では、法経文同窓会、十全同窓会及び金沢工業会（工学部同窓会）を中心に合同の総会や他学部の卒業生も多数参加した懇親会が開催されるようになったこと。

同窓生たちは卒業式後、総合移転がほぼ終了した角間キャンパス見学会に参加し、霊峰白山の麓から築280年の豪農家屋を移築して整備した創立五十周年記念館「角間の里」、理学部・薬学部・工学部が入る自然科学研究科棟、金沢大学とその前身校の資料等を展示する資料館、文学部・教育学部・法学部・経済学部などを順次訪問した。

同窓会担当の中村信一理事・副学長は歓迎のあいさつで、「教職員・学生とともに卒業生を本学の基本構成員と位置づける必要があります。卒業生に、金大卒を誇りにしてもらえよう大学となるよう努力していきたい。そのためにも、同窓生の皆様のお力をお借りして、一日も早く同窓会の連絡協議会を結成したい」と抱負を述べた。

関係同窓会代表者等懇談会ひらかれる

2 月22日、2回目となる金沢大学関係同窓会代表者等懇談会が開催された。

会場の角間キャンパス事務局大会議室には、法・経・文、教育、理学、医学、薬学、工学及び旧制四高の各同窓会等の代表者のほか関東理学部同窓会の代表者も出席し、事務局から提案のあった「金沢大学全学同窓会連絡協議会会則（案）」を基に協議の結果、早期に「全学同窓会連絡協議会」を結

成することが合意された。

当日事務局から行った前回以降の経過報告要旨は次のとおり。

●単位同窓会とのネットワークを整備し、広報誌「フカシナス」（季刊）を各単位同窓会から申し出のあった支部等へ送付を始めたこと

●同窓会担当副学長と事務担当を連絡窓口として、各単位同窓会及び一部の地区との連絡が密になりつつあること。法経文同窓会東京

卒業式・角間キャンパス見学会を実施

3 月22日に挙行された平成17年度学位記・修了証書授与式（卒業式）には、多数の保護者に混じって旧制四高卒業生をはじめとする1回生から41回生までの卒業生十数名が出席し、後輩たちとともに久々に校歌を高唱した。



創立五十周年記念館「角間の里」で、里山自然学校の活動を聞く



資料館で前身校の資料をのぞき込む



中村信一理事から大学概要の説明を受ける

会

金沢医学校・金沢病院・ 石川県甲種医学校・尾山病院

（オランダ医学からドイツ医学への変遷）

資料館客員研究員 板垣 英治



写真3：尾山病院の位置を示す地図
金沢市街之図（明治25年6月発行）
金沢市立図書館近世史料館蔵

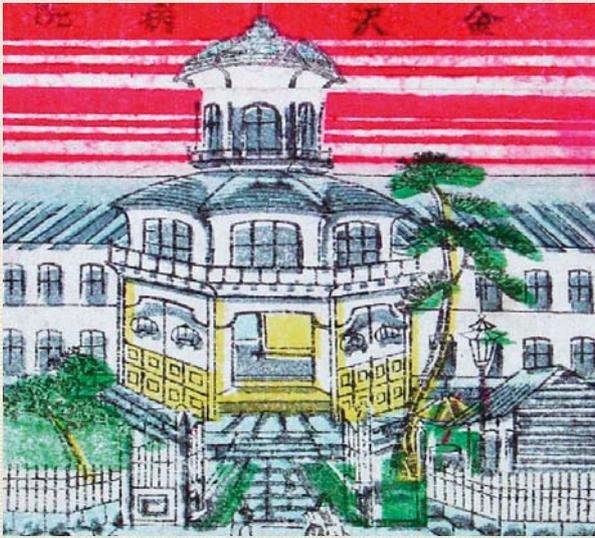


写真1：金沢病院
加賀金沢細見図（明治20年4月）
（金沢市立玉川図書館近世史料館蔵）

に触れました様に、「石川県金沢病院」は明治9年に医学教育と患者の診療を分離するため「石川県金沢医学所」と「石川県金沢病院」とに分割されました。明治12年6月には、金沢病院は新たに洋風病院を医学所の後方―殿町松平大式邸跡（現NHK金沢の地）―に建築・落成しました。

この病院は当時の金沢地図に新名所としてその姿が描かれています（写真1）。

大田美豊里院長は新築事業で、前田侯、学校病院職員、市内開業医師、富豪等からの寄付を得るために大いに

貢献しました。さらに、これを機に医学所は「金沢医学校」と改称され、田中信吾が校長兼病院用掛（院長に新任しました）（写真2）。

同年11月に田中信吾は石川県より医学教育強化を目的としての医務取り調べのために上京を命じられました。翌年2月に彼は金沢に帰ると、直ちに医学教育制度及び規則の改革を行い、教員・吏員を新設し、「実地修業」「速成」のために医学校での修業年限の4年間への短縮と日本語での医学教育を行うことを決めました。田中のこの上京はドイツ医学を学んだ医学士の上京への招聘への前触れでもあったと見られます。

明治13年8月には東京大学医学部を卒業したばかりの医学士外山林介と伴野秀堅が教諭として着任して、金沢で初めてのドイツ医学の教育が始まりました。しかし、彼等は2年足らずで金沢を去っています。

明治15年5月に、政府は医学校通則を改革して、甲種医学校の制度を設け

て、この学校の卒業生は無試験で医師免許を取得出来るようになりました。ただし、この学校の認可の条件として「少なくともモ三名ハ東京大学医学士デアル」としました。

金沢医学校には15年末から17年にかけて、木村孝蔵（外科）ら3名の東京大学医学士が新たに一等教諭として着任してこの条件を満たし、17年3月に「石川県甲種医学校」に昇格しました。

一方、病院は内科、外科、眼科、産科の4分科制を採用しました。このために田中信吾は校長の席を明け渡し、新たに岡山から中浜東一郎が着任しました。分科制を行うこと、若い木村らが一等教諭として、田中らの上に位することから、新旧の職員との間には対立を生むこととなりました。

田中信吾翁碑銘文には「十二年十月、また金沢医学校校長兼金沢病院長に転じ、声誉益々隆し。会当路の者と議して合はず。乃ち辞職す。是に於て同志と謀り尾山病院を建つ。衆推し院長と為す。」とあり、この間の経緯を表しています。17年12月11日に田中は「依願免本務並兼官を石川県に提出して、この学校を退任しました。

明治18年2月に彼は医員藤本純吉、伍堂卓爾、不破鎮吉らと共に隣接の博労町に北陸最初の私立病院「尾山病院」を開業しました（写真3）。当初の6年間は本院の外来患者数は金沢病院の患者数より、はるかに上回っていました。

時は流れ、尾山病院は医員の死亡や高齢化により、大正元年12月31日に藤本純吉院長により閉院されました。一方、石川県甲種医学校は明治20年の「第四高等学校」の発足により、同校医学部となり、さらに同27年9月には「第四高等学校医学部」となりました。

金沢でのドイツ医学の始まりには、このような田中信吾の貢献と葛藤の裏話があったのです。



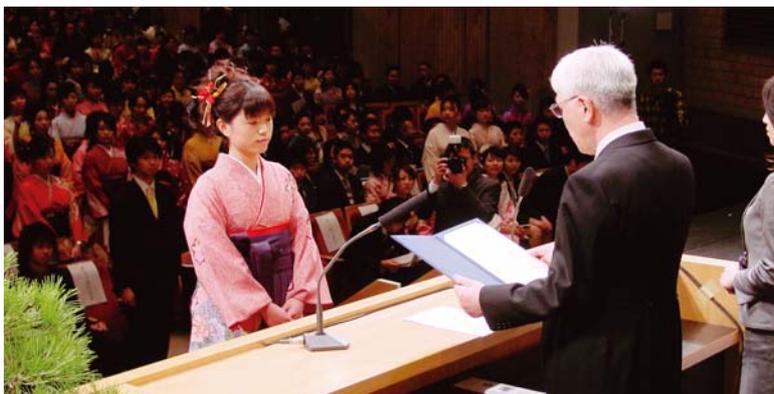
写真2：田中信吾肖像画
（金沢大学医学部記念館蔵）

●このほか、金沢大学のニュース&トピックスは、金沢大学公式ホームページでご覧いただけます。
<http://www.kanazawa-u.ac.jp/>

●学位記・修了証書授与式

3月22日、金沢市観光会館で平成17年度金沢大学学位記・修了証書授与式が挙行され、学部生1845名、大学院生744名、専攻科10名、別科28名、計2627名に学位記及び修了証書が授与された。今回、初めて大学院と学部の2部制で行われ、会場内に保護者・同窓会席が設けられた。保護者からは、式への同席に歓迎の声が多くあがっていた。

また、式では学業や課外活動等で顕著な功績があった18名、8団体に学長表彰が贈られた。(14頁に関連記事)



●角間キャンパスへの路線バス100円運行でバス会社と協定

学生らの大学への交通の利便性を向上させるため、角間キャンパスと学生が多く居住する旭町周辺のバス停留の運賃を100円とすることで、バス会社の北陸鉄道(株)と合意し、2月15日協定を締結した。協定は「バストリガー協定」と呼ばれ、公共交通機関の利用促進を図る金沢市の提案により実現したもので、18年4月から1年間の実証実験として運行される。「トリガー」とは、誘因、引き金という意味で、170円から200円の運賃区間を100円とすることで、学生等の利用を促進する。採算ラインを下回れば運賃をもとに戻すことを含めた見直しを行うという全国でも初めての取組みとなっている。(裏表紙に関連記事)



協定書を交換する右から林勇二郎学長、山出保金沢市長、徳村周斌北陸鉄道社長

●「能登の自然と文化を生かす」をテーマにタウン・ミーティング

社会貢献室は3月4日、5日の両日、「金沢大学タウン・ミーティングin能登」を能登町のホテル「のとくんぶら」で開催した。タウン・ミーティングは「地域に開かれた大学」を目指し大学と地域住民が語る催しで、輪島、加賀、白山、珠洲の各市に続いて今回で5回目。今回のテーマは「能登の自然と文化を生かす途(みち)」で、両日合わせて230人の参加があった。

本学教員、石川県立大助教員、本学委嘱の「駐村研究員」が海洋資源や森林資源の利用、バイオマス発電、食文化などのテーマで話題提供をした。2日目は「食文化と地域資源」、「里山利用と地域活性化」をテーマに分科会を開き、大学の研究を生かした能登の活性化について話し合った。



開会のあいさつをする橋本哲哉副学長

●石川県教育委員会との連携事業による成果発表会が開かれる

本学と石川県教育委員会の連携によるゼミナール研修の成果発表会が1月31日、教育学部で開かれ、県内の小中高の教諭、本学の教員・学生ら300名以上が参加した。ゼミナール研修は、昨年の3月に本学と県教委が教員の養成から現職教員の研修にわたる、一貫した教員養成システムを図る目的で締結した連携協定に基づき行われたもの。

4月から1月にかけて、教育学部の教員9名が8つの理数科目目のゼミの講師を務め、県内の小中高の教諭59名が、指導案作成、研究授業、授業分析などにより指導力の向上を目指した。



開会式であいさつする山岸勇石川県教育委員会教育長

Calendar

- 1**
- 4 学長年頭あいさつ
 - 10 成人祝賀式
 - 11 第2回「企業の夢と大学に託す希望」企業発表会
 - 17 外国語教育研究センター研究会
 - 19 金沢がん生物学国際シンポジウム2006
- 21~22**
- 21 大学入試センター試験
 - 21 ミニ講演
「いま子どもたちに何が起きているのか」
- 27~29**
- 白山(白峰)雪だるまウィーク2006in金沢
 - 27 地域交流フォーラム「角間の里」を知る!
~旧山口家の歴史と今後の事業展開
 - 30 第5回金沢大学ベータベースフォーラム
 - 30 派遣留学報告会
 - 31 教育学部・石川県教育委員会連携セミナー
研修成果発表会
- 2**
- 3 第5回教員養成改革フォーラム
 - 3~4 平成17年度金沢大学社会教育主事
フォローアップ研修
 - 6 「分野混成チーム派遣によるモノづくり教育」
成果報告会
 - 8~9 第27回がん研究所セミナー
 - 13 ハラスメント防止に関する講演会
 - 14~17 業界企業研究会
 - 15 「金沢バストリガー方式」協定調印式
 - 16 外国語教育研究センター第1回講演会
 - 16 特別講演会「水圏・水域の環境に関する講演会」
 - 16~17 金沢大学・石川県フォーリンプレストア
 - 19 ミニ講演「いのちの水を日本から世界へ」
 - 21 企業家育成セミナー
 - 22 第2回金沢大学関係同窓会代表者等懇談会
 - 22 前期日程入学試験
 - 28 こまつものづくりフォーラム
「ものづくりのまちの再構築を考える」
 - 28 第3回大学教育セミナー
- 3**
- 3 日本学術会議地域振興・中部地区フォーラム
 - 4~5 タウンミーティングin能登
 - 7 「金沢学」特別コース
 - 8 前期日程合格発表
 - 8~10 21世紀COEプログラム(環日本海)
第4回国際シンポジウム
 - 10 日本海学シンポジウム
 - 12 後期日程入学試験
 - 16 医学部附属病院講演会
 - 18 ミニ講演「『韓流マダム』が日本・韓国を変える」
 - 18, 20 法情報センター模擬裁判
 - 21 後期日程合格発表
 - 22 平成17年度学位記・修了証書授与式
 - 22 同窓生大学見学会
 - 23 本学と北國新聞社による「金沢学」
推進事業実施にかかる覚書の調印
 - 24 第4回北陸地区国立3大学教養教育研究会
 - 24 退職記念式
- 4**
- 1 学際科学実験センター市民公開講座
 - 4 路線バス100円運行開始式
 - 7 平成18年度入学宣誓式

各種受賞等

- 1/9 吹奏楽団アンサンブルコンテスト石川県大会金賞
(能美市)
- 2/12 吹奏楽団アンサンブルコンテスト北陸支部大会金賞
(福井県)
- 3/22 学位記・修了証書授与式における学長表彰

●論文等が優れていると認められる者

渡瀬博之(わたせひろゆき)自然科学研究科/保科有希(ほしなゆき)自然科学研究科/野村宏美(のむらひろみ)文学部/海野峻太郎(うんのしゅんたろう)工学部

●本学の課外活動の振興に顕著な功績があったと認められる団体

合唱団代表 山本善啓(やまもとよしひろ)/陸上競技部代表 鈴木美沙部(すずきみさと)/硬式野球部代表 津津伴美(つづともみ)/男子バレーボール部代表 杉田広明(すぎたひろあき)/弓道部代表 有賀祐人(あるがゆうと)/洋弓部代表 盛川彰子(もりかわあやこ)/スキー部代表 北上隼生(きたがみひろお)/フォーミュラ研究会代表 中尾仁(なかおひとし)

●本学の課外活動の振興に顕著な功績があったと認められる個人

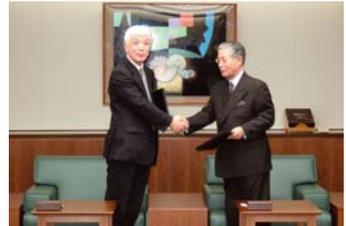
福生隆則(ふせりゅうのり)教育学研究科/濱田敦子(はまだあつこ)法学研究科/鈴木美沙部(すずきみさと)法学部/倉沢茜(くらざわあかね)教育学部/加藤公基(かとうこうき)工学部/田中雄輝(たなかゆうき)教育学部/川崎文義(かわさきふみよし)工学部/長瀬博之(ながせひろゆき)医学部/盛川彰子(もりかわあやこ)文学部

●その他、表彰に値する行為等があったと認められる者

森井一誠(もりいっせい)理学部/中込玲子(なかみれいこ)文学部/工藤瑠子(くどうりゅうこ)教育学部/加藤沙絵(かとうさえ)教育学部/西嶋大輔(にしじまたいすけ)理学部

●北國新聞社と「地域学としての金沢学」の推進で覚書を締結

本学と北國新聞社は、大学の社会貢献事業及び新聞社の地域振興事業の一環として、互いに連携・協力して「金沢学」を推進することで合意し、3月23日、



覚書を交わし、握手する林学長(左)と飛田社長

林勇二郎学長と飛田秀一社長が覚書を交わした。

すでに本学で開講している「金沢大学市民大学院」のゼミナール「金沢学」、共通教育総合科目「金沢学入門」及び留学生教育科目「金沢学」のほか、金沢経済同友会が実施する「金沢検定試験」に対する協力などが共同事業にあげられている。また、県民・市民を対象とした公開講座「地域学としての金沢学」の開講も計画されている。

●同窓生を招き、卒業式・角間キャンパス見学会を実施

3月22日に挙行了した学位記・修了証書授与式は大学院と学部との2部制で行われ、はじめに保護者・同窓会関係者席が設けられた。同窓会関係では、旧制四高卒業生をはじめとする1回生から41回生までの卒業生十数名が出席し、後輩たちとともに校歌を高唱した。

同窓生たちは式後、角間キャンパス見学会に参加し、「角間の里」、自然科学研究科棟、資料館、文・教育・法・経済の各学部などを順次訪問した。

本学では、学部又は学科単位に組織されている同窓会を、旧制四高同窓会を含め全学的な同窓会連絡協議会として早期に整備する予定であり、本格的な「ホームカミングデー」の開催も展望している。



「角間の里」で里山自然学校の活動を聞く

●本学の先端研究を海外メディアがツアー取材

社会貢献室は2月16日と17日、石川県と共同で東京に駐在する海外マスコミの記者を招へいするフォーリン・プレスツアーを実施した。



「角間の里」で開かれた意見交換会

ツアーに参加した報道機関は新華社(中国)、中国青年報(同)、UPI通信(アメリカ)、YNet(イスラエル)の4社5人。本学での取材は、世界初の動画観察が可能

な「高速原子間力顕微鏡」を開発した安藤敏夫教授の研究室と、21世紀COEプログラムの事業推進担当者で、HIV由来ウイルスを用いた脊髄小脳変性症の遺伝子治療に取り組む平井宏和助教授の実験室の2カ所。

また、記者と同国からの留学生との意見交換会も開催された。

●こまつものづくりフォーラム

2月28日、こまつ芸術劇場(こまつ)で、本学共同研究センター、小松市、日本政策投資銀行の共催により「こまつものづくりフォーラム」が開催された。

フォーラムは、昨年11月の3者による「産学官連携協定」に基づく連携事業の一つで、コマツの鈴木康夫取締役兼常務執行役員による「コマツの経営戦略とものづくりのまち小松への期待」と題する講演のほか、日本政策投資銀行 西山健介調査役による「こまつものづくりクラスタ調査」の結果報告、本学教員による技術研究発表会、パネル展示、共同研究センター小松サテライトの活動報告などがあった。



講演するコマツ 鈴木取締役

路線バス100円運行開始!

(13ページに関連記事)

路線バス100円運行は、収入が採算ラインが下回った場合“運賃を元に戻すこと”を含めた見直しが行われます。収入の比較はICaのみのカウントとなり、現金での支払いは比較の対象とはなりませんので、ICaの利用をお願いします。またICaでは10%のプレミアが付き100円バスが実質91円でご利用いただけます。

新規券は、金大生協購買部で販売しています。
会員登録は大学会館トラベルセンターへ

自然研エリア食堂前に
ICa積み増し機を
新設しました!



●詳しくはこちら http://www.kanazawa-u.ac.jp/j/info/access/100YenBus/trigger_k.html



●Acanthusとは?

「アカンサス」は、古代ギリシア・ローマに由来し、金沢大学の校章に使われている植物の名称(和名ハアザミ)で、角間キャンパスの各地区をつなぐ連絡橋の名称に使われるなど、学生・教職員に親しまれている。

ご意見・ご要望

金沢大学では、より良い広報誌を作成するため、みなさまからのご意見・ご要望をお待ちしております。

取り上げてほしい話題、質問したいことなど何でも結構ですので、下記までお寄せください。

〒920-1192 金沢市角間町
TEL.(076)264-5024 FAX.(076)234-4015
金沢大学広報戦略室 宛
E-mail:koho@ad.kanazawa-u.ac.jp
HP <http://www.kanazawa-u.ac.jp/>

今号の→写真は桜。
後記を書いているちゅうやこの日に、通勤路の桜も満開になっていました。しっとりとした雨にうたれる桜もいいですが、願わくば、散らない間に青空がほしくですね。
さて、今号のアカンサスは、内容盛りだくさんで発行させていただきました。ページ数こそ変わっていませんが、金沢大学のホットニュースがぎゅっと凝縮され、詰め込まれています。
今年度より広報室は「広報戦略室」に生まれ変わりました(どう変わるの?それはこれからご期待ください)。今後、満開の桜のように、皆に愛される広報誌を発行していきますので、ご愛読の程、よろしく願いたします。(友)

編集後記

